

NX7700x/A7010E-2、A7010E-2c、A7012M-2 ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システム ROM の機能に関する注意事項
- 3) iLO 6 の機能に関する注意事項
- 4) OS に関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

本体装置購入時に合わせて購入されていない場合はダウンロードして適用してください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] — [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの StarterPack の項を参照)

なお、使用する StarterPack については、別途 Web 公開している「OS と Starter Pack の対応」を参照ください。

<https://jpn.nec.com/nx7700x/support/index.html?>

対象装置のマニュアルを参照願います。

● VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。Web サイトに掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://jpn.nec.com/nx7700x/>

([技術サポート情報・ダウンロード] — [ドライバー、ユーティリティ関連の物件] のページの ユーティリティの項を参照)

2. SNMP Trap および CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744>

(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」を参照)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「エンタープライズサーバ (NX7700x シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

2) システム ROM の機能に関する注意事項

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれにPOST 停止することがあります。本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

1. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェースにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
2. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェースにある Power アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC NX7700x System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

上記復旧手順を実施しても復旧しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● Intel (R) Quick Assist Technologyについて

以下のCPUを搭載したシステムにおいて、v1.46 (09/26/2023) のシステムROMバージョンを使用している場合、CPU2側の Quick Assist Technology機能は利用できません。

対象CPU:

NE3301-1851 CPUボード(32C/2.80GHz/Platinum 8462Y+)
NE3301-1842 CPUボード(8C/2.90GHz/Gold 5415+)
NE3301-1844 CPUボード(28C/2GHz/Gold 5420+)
NE3301-1841 CPUボード(20C/2GHz/Silver 4416+)

Quick Assist Technology機能を利用するためには、システムROMをv2.16 (03/01/2024) 以降にアップデートする必要があります。

● PCIe SlotのLink Speed設定について

下記のPCIe SlotについてPCIe Link Speed (*1)を変更してもLink Speedに反映されません。常に最大Link Speedで動作します。

A7010E-2c : PCIe Slot 3
A7010E-2/ A7012M-2 : PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed 設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : "Device 名" > PCIe Link Speed : **【Auto】** / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : A7010E-2c はPCIe Slot 3、A7010E-2/ A7012M-2 はPCIe Slot 4/5/6

"Device 名" : 実装されるPCIe Deviceによって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は[Auto]です。設定変更は行わないでください。

実装されるPCIe Deviceによって、選択可能なPCIe Generation 1.0/2.0/3.0は変わります。

将来のシステム ROM で修正される予定です。

●View IMLに関する注意事項

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティのView IML 機能(*1)は使用しないでください。

- ・ システム ROM v2.16 (03/01/2024) 未満
- かつ
- ・ RAID コントローラ (NE3303-243/245) を搭載 (Firmware Version 5.61)

上記条件を満たした状態でView IML 機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death)が発生します。

そのため、IML ログを表示する場合は、iLO Web インターフェイス(*2)を使用してください。

なお、RSoD が発生した場合には、システムの復旧のために電源を Off/On にする必要があります。

(*1) System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)

(*2) iLO Web インターフェイス: [Information] - [Integrated Management Log]

●工場出荷時の設定について

2024 年 7 月 8 日出荷装置より、下記項目の出荷時設定を変更しています。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options >

Processor x2APIC Support: 【Auto】 → 【Force Enabled】

本設定により、高コア数の CPU をご使用時に、オペレーティングシステムをより効率的に実行できるようになります。

2024 年 7 月 8 日より前に本機を購入されたお客様は、上記設定に変更してください。

● POST メッセージコード” 5445” について

POST (Power on Self Test)において、下記のようなメッセージを表示される場合があります。

本現象は、装置の機能、性能に影響はございません。

```
5445 - Newer Firmware Version - Processor 1. The processor's PCode firmware  
(1000000) version is newer than the images available in the current BIOS.  
Action: Update to the latest BIOS.
```

3) iLO 6 の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間 (POST実行中も含みます) は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。

また、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース: [Information] - [Overview] ページにおけるUUID、UID (論理) が不正な表示になる場合があります。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- ・ iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。


● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy] の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定にリセットを行った場合においても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLO Webインターフェースのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard] およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLOセキュリティの状態がリスク状態 (赤色) で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「iLO Webインターフェースの[ホスト認証が必要] 設定における注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard] の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard] の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLOの時刻設定について

iLOの時刻設定は、iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO6 バージョン1.41以下におけるリストア操作についての注意事項

iLO6 バージョン1.41以下が適用された環境で、iLO Webインターフェース: [Lifecycle Management] - [Backup & Restore] ページにおいて、iLO6 バージョン1.41以下でバックアップしたファイルを用いてリストアを行うと、「ファイルが正常にアップロードされませんでした。後でもう一度試してください。」のエラーメッセージが表示されます。

iLO6 バージョン1.41以下でバックアップしたファイルを用いてリストアする場合は、事前にiLO6 バージョン1.52以降のファームウェアにアップデートし、アップデート後にリストア操作を行ってください。

● iLO Web インターフェースの[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

『有効』に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報サービス
- ・ iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

NIST SP800-193 運用環境を構築される場合は、以下の URL に掲載された運用手引きを参照し、OS 環境構築後、『有効』に設定するようにしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140109677>

→ 「NIST SP 800-193 準拠 運用構築手引き」

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERRORが発生した場合の対処について

POST実行中、稀にRESTful API Errorが発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがありますが、iLOリセットを行うことで復旧できます。

問題が解決しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● iLO Web インターフェースのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Web インターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLO リセットを行ってください。また、その後、10 分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

- ・ Windows の場合

Windows の管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。

- ・ Red Hat Enterprise Linux 8.x/9.x の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad  
# systemctl restart amsd
```

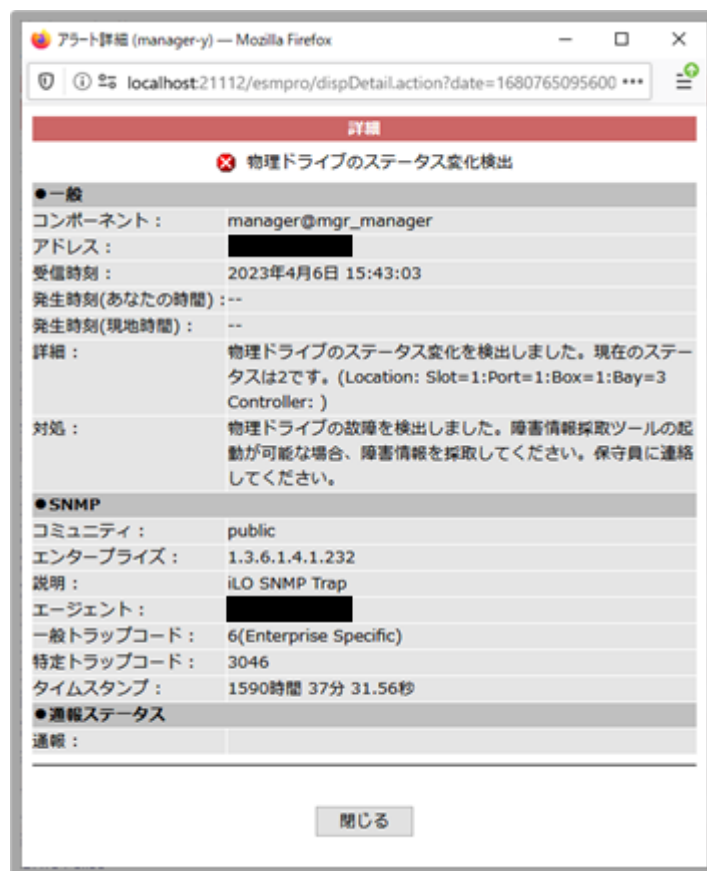
- ・ ESXi7.0/8.0 の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

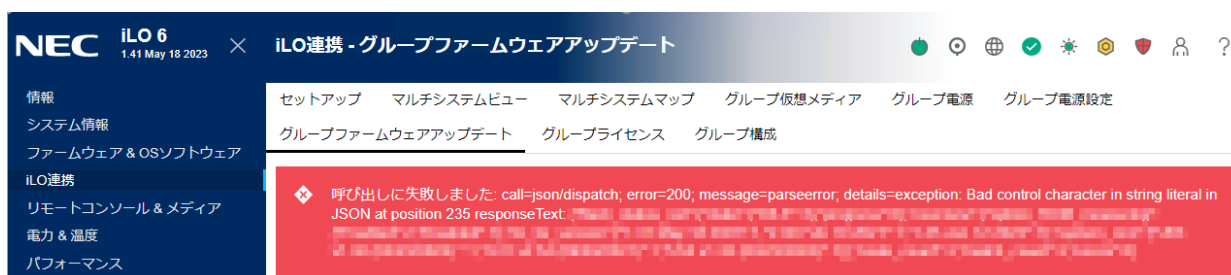
● 通報に関する注意事項について

- 論理ドライブを構成した物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエキスプレス通報が通知されません。
また、ESMPRO/ServerManagerアラートビューアにおいて、「物理ドライブのステータス変化検出」が通知されますが、詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。
※ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(failed)を示します。



● iLO 連携グループ ファームウェア アップデート機能が利用できない件について

以下のメッセージが表示され、利用できません。



文章と画像は将来変更の可能性があります。

● RAID コントローラ (SR) 構成時の RESTful API での RAID コントローラ情報に関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合：

下記の RAID コントローラ (SR) に特定のファームウェアが適用されている場合、iLO RESTful API で下記の Redfish リソース情報を取得すると、返却される JSON データ中の PCIeFunctions 配列内の @odata.id に正しいリンク情報が表示されずエラーを示す "F0" が表示され、RAID コントローラに関する PCI 機能の参照ができません。

RAID コントローラの PCI 機能を確認したい場合は、Smart Storage Administrator から PCI 機能を参照してください。

■ 対象 RAID カードおよび RAID ファームウェアバージョン

NE3303-243/243L	RAID ファームウェアバージョン	7.11
NE3303-244/244L	RAID ファームウェアバージョン	03.01.30.106
NE3303-245/245L	RAID ファームウェアバージョン	7.11
NE3303-246/246L	RAID ファームウェアバージョン	03.01.30.106

■ 対象 Redfish リソース

/redfish/v1/systms/1/storage/{controller ID}/controllers/0

■ 返却される JSON データ (該当箇所)

```
"PCIeFunctions": [  
  {  
    "@odata.id": "F0"  
  }  
],
```

● 仮想シリアルコンソールに関する注意事項

iLO6 ファームウェアバージョン 1.64 以降をご使用の場合：

仮想シリアルポートログ over CLI 設定を有効にした後、SMASH-CLP からテキストベースの仮想シリアルコンソールを起動しても何も表示されません。

■ 仮想シリアルコンソール起動コマンド

vsp または start /system1/oemNEC_vsp1

仮想シリアルポートログ over CLI を無効から有効に設定変更後、仮想シリアルコンソールに何も表示されなくなった場合、BMC 構成ユーティリティより [工場出荷時のデフォルトにセット] を実施してください。

4) OS に関する注意事項

● Windows Server (R) OS ご使用時の注意事項

32 コア (物理コア) を超えるプロセッサを搭載している場合、Windows Server (R) 2019 でシステム情報 (Msinfo32.exe) ツールとタスクマネージャーの [パフォーマンス] タブに、プロセッサのソケット数やコア数、L1 キャッシュと L2 キャッシュのサイズが正しく表示されません。

詳細は、下記のリンクを参照してください。(その際、「A7010E-2c」であれば「Express5800/R120j-1M」、それ以外であれば「Express5800/R120j-2M」とみなしてください。)

Windows Server (R) 2019 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598>

iLO Web インターフェイスまたは System Utilities では正しい CPU 情報が確認できます。

● NE3304-208 10/25GBASE 接続 LOM カード (SFP+ 2ch) を搭載した Windows Server 環境にて記録されるイベントについて

NE3304-208 を搭載した Windows Server 環境にてシステムイベントログに以下のようなイベントが記録される場合がありますが、システム運用上問題はございません。

ソース : icea
イベント ID : 89
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージの読み込み中に不明なエラーが発生しました。セーフモードに切り替えます。
対処 : アダプターを再起動してください。
問題が解決しない場合は、“<http://www.intel.com/support/go/network/adapter/home.htm>” から最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。
※x の値は環境により異なります。

ソース : icea
イベント ID : 91
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージの署名が無効なため、読み込めません。セーフモードに切り替えます。
対処 : “<http://www.intel.com/support/go/network/adapter/home.htm>” から最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。
※x の値は環境により異なります。

ソース : icea
イベント ID : 1284
レベル : エラー
説明 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 xxx
問題 : DDP パッケージのエラー。
考えられる解決策: 最新のベースドライバーと DDP パッケージにアップデートします。
※x の値は環境により異なります。

● NE3301-1841/1842/1842L/1844/1851/1851L/1853/1853L CPU ボード搭載時の RHEL 環境での Intel Quick Assist Technology (QAT) についての注意事項

NE3301-1841/1842/1842L/1844/1851/1851L/1853/1853L CPU ボードを搭載した装置に RHEL をインストールすると、起動のたびに QAT の firmware の適用を促す下記のイベントがメッセージに登録される場合がありますが、無視してご使用ください。

例:

```
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Direct firmware load for qat_4xxx_mmp.bin failed with error -2
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load MMP firmware qat_4xxx_mmp.bin
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Failed to load acceleration FW
>Jan 4 15:04:47 localhost kernel: 4xxx 0000:e8:00.0: Resetting device qat_dev0
```


● RAID 監視通報方式の変更について

VMware ESXi において、RAID 監視通報は SNMP Trap をご利用ください。
詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

- ・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=3140108419>

● Linux OS を使用する際の注意事項

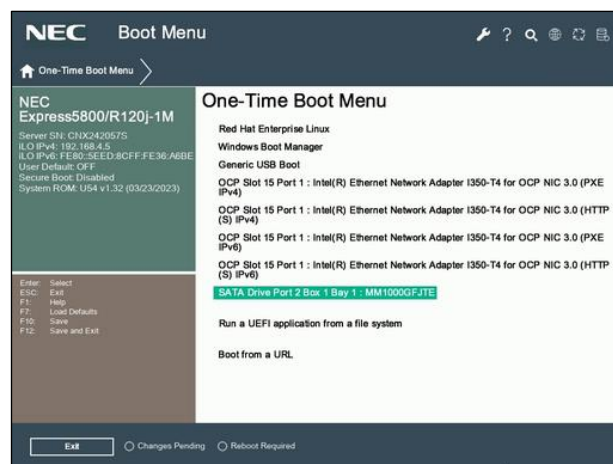
OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCI アドレスを含む /dev/disk/by-path/ 配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat Enterprise Linux を使用する際の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OS ブートマネージャー (例: Red Hat Enterprise Linux) を選択してください。

OS がインストールされた HDD や SSD などのブートデバイスを選択しても OS ブートできません。



ワンタイムブートメニュー画面

● Red Hat (R) Enterprise Linux (R) (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される

Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 8 (x86_64) 起動時の syslog に PCI 関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:10.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:10.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Express からの割り込み処理の割り当てができない事を示すメッセージです。
当該機種では、メッセージが示す PCI デバイスは未接続のものであり、動作に影響はありません。

● VMware ESXi 7 または 8 をご使用時の注意事項

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、hostd.log に以下のメッセージが記録されることがあります。

Skipping interrupt routing entry with bad device number: 176...

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) では、この問題が修正されています。

● RHEL での“Open could not dequeue a packet”と“Closing, but controller still active”
のメッセージが出力した場合の対処について

RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 動作中、OS のシステムログに iLO ドライバや Agentless Management Service (AMS) による smad プロセスや amsd プロセスのメッセージ出力されることがあります。

本ログが大量かつ継続的に登録される場合は、iLO の再起動を実施してください。

iLO の再起動は、iLO Web インターフェースの[情報]-[診断]ページにて、
[リセット]をクリックすることで実行できます。

■メッセージ例

kernel: hpilo 0000:01:00.2: Open could not dequeue a packet

kernel: hpilo 0000:01:00.2: Closing, but controller still active

smad: Failed: ~

smad: Connected ~

5) 全般の機能に関わる注意事項

● NE3304-208 10/25GBASE 接続 LOM カード(SFP+ 2ch) ご使用時の注意事項

NE3304-208 10/25GBASE 接続 LOM カード(SFP+ 2ch)にて Wake On LAN を使用しない場合は、必ず以下の手順に従って設定を変更してください。

本設定を行わない場合、Wake On LAN が機能する状態となります。

- (1) システムを起動します。
- (2) POST 中に<F9>キーを押下し、[システムユーティリティ (System Utilities)]に入ります。
- (3) [システム構成]に入り、Wake On LAN を設定する LAN コントローラを選択します。

本製品の場合、以下の名称となります。

- ・ OCP Slot 10 Port 1 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 for OCP 3.0 - xx:xx:xx:xx:xx:xx
- ・ OCP Slot 10 Port 2 : Intel (R) Ethernet Network Adapter E810-XXV-2 for OCP 3.0 - xx:xx:xx:xx:xx:xx

- (4) [NIC 設定] - [Wake On LAN]の値を「無効」に設定します。
- (5) [F12: 保存して終了]を選択後、[OK]または[はい - 変更の保存]を選択します。
[再起動]ボタンが表示されたら、<Enter>キーを押してシステムを再起動します。

NE3304-208 10/25GBASE 接続 LOM カード(SFP+ 2ch)にて、Wake On LAN 機能を用いて本体装置の起動を行う場合、マジックパケットは本体装置をシャットダウンして、電源がオフの状態を受信するようにしてください。

本体装置が稼働中にマジックパケットを受信した場合、その後本体装置がシャットダウンされ電源がオフに移行した後に、自動的に本体装置の電源がオンされてしまいます。

● NE3303-184/E184 SAS コントローラ ご使用時の注意事項

NE3303-184/E184 SAS コントローラを使用する場合、iLO Web インターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]の Status が“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● NE3301-1858 1U 水冷ヒートシンクご使用時の注意事項

NE3301-1858 1U 水冷ヒートシンクを搭載している場合、電源投入時に iLO Web インターフェースに下記のようなイベントが Integrated Management Log (IML)に記録され、水冷ヒートシンクの Cooling Pump のステータスが一時的に OK から Critical となることがあります。

起動後ステータスが OK となれば、正常に動作しているため無視してご使用ください。

例:

“Critical”, 0x0002, “Machine Environment” 0x003B, Liquid Cooling Module Failure (Pump CPU#, location System)”

または、

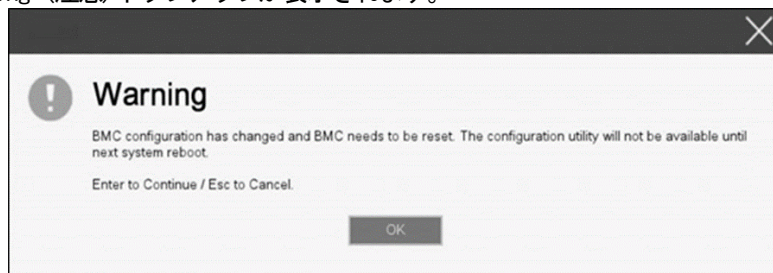
“Critical”, 0x0002, “Machine Environment” 0x003B, Liquid Cooling module Failure (Pump #, Location System)”

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

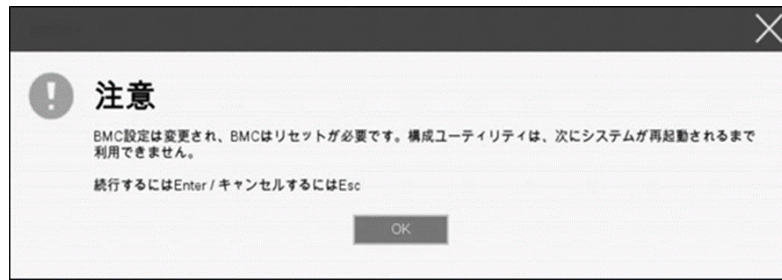
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

案内の手順に従って操作されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID が消失する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。

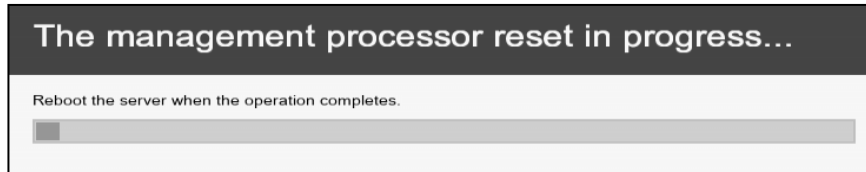


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) iLO の再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
 プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
 もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 3分以上経過後、以下を確認します。
 - A. 本体操作時
 対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 - iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
 - iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
 - B. リモート (iLO Web インターフェイス) 操作時
 対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- (5) (4)において、iLO の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- (6) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

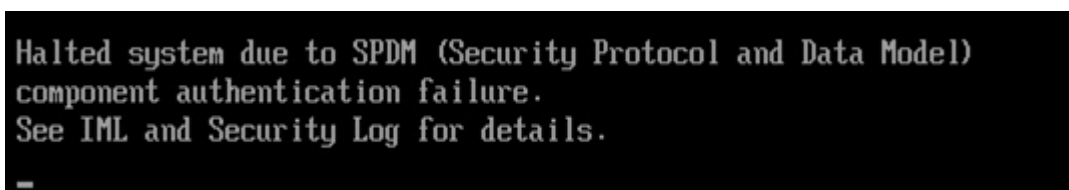
● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、またはPCI スロット付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。
 なお、工場出荷時に搭載されているPCI カードはネジで固定しています。

● Halted System due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure というメッセージが表示された場合の注意事項

システムの再起動を頻繁に実行した場合、「Halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure」というエラーが発生して、OS が起動しないことや、電源投入時のセルフテスト (POST) が完了しないことがあります。

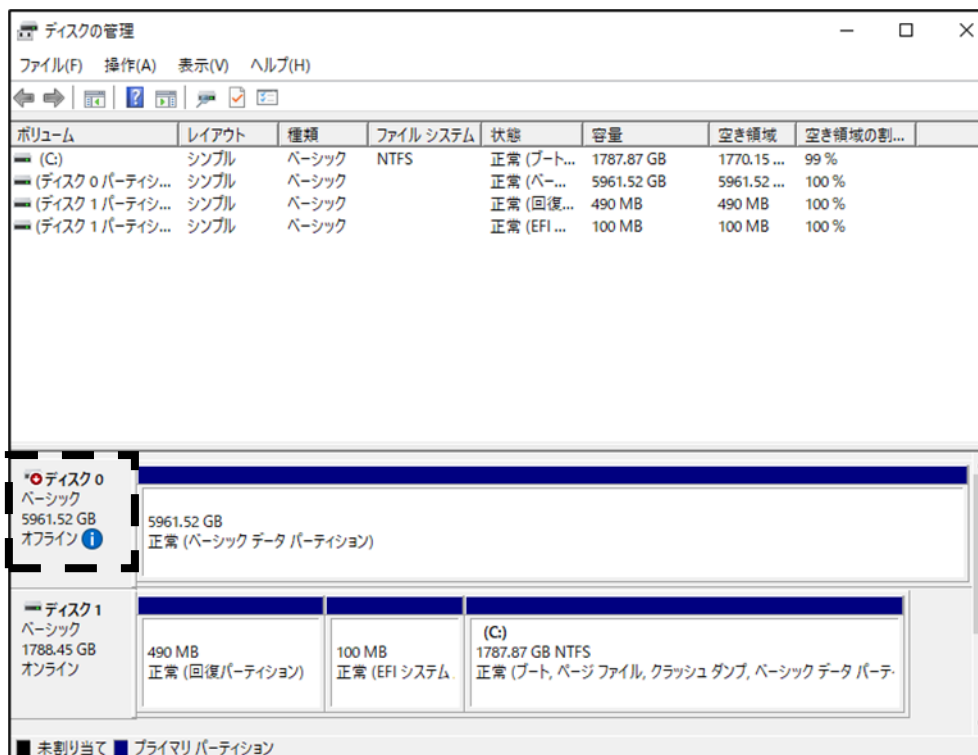
この画面で停止した場合はシステムを再起動してください。



●NE3303-244/244L/246/246L RAID コントローラご使用時の注意事項

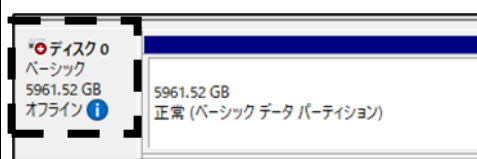
- ・システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置 (Location) 情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがあります。One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示でご確認ください。

- ・Windows 環境でファームウェア「03.01.23.072」を用いた NE3303-244/244L と NE3303-246/246L の混載している場合、もしくは NE3303-246/246L を 2 枚以上搭載している構成の場合、Windows 起動時に OS がインストールされていないディスク (データディスク) がオフラインになる場合があります。尚、データ消失などは発生しません。

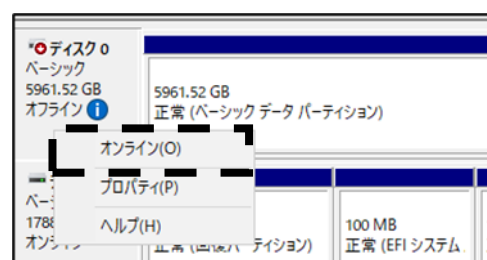


本事象が発生した場合は、下記手順を参考に、「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



- ① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック



- ② オンラインをクリック

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft (R)、Windows (R)、Windows Server (R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel (R)、Xeon (R) は米国 Intel Corporation の登録商標です。

Linux (R) は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat (R)、Red Hat Enterprise Linux (R) は米国 Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term “Broadcom” refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

NEC

2025 年 4 月 第 9 版



CBZ-059048-001-07